

会議録

起案日：令和6年3月29日

下記のとおり会議録を作成しましたので報告します。

件名	令和6年度 第3回丹波市立文化ホール事業推進会議
日時	令和6年3月28日（木） 19:30 ～ 20:45
場所	春日住民センター2階 研修室
出席者	[委員] 角 悟会長、荻野 直貴副会長、安達 三紀子委員、田邊 利典委員、 内田 順子委員、梅谷 浩子委員 (※欠席：中谷委員、中出委員、吉見委員) [事務局] まちづくり部長 福井 誠 次長兼文化・スポーツ課長 谷水 仁 文化・スポーツ課芸術文化係 主事 細見 享佑 同 主事 瀬頭 史勇
【会議要録】 1 開 会 事務局 ・事務局よりあいさつ (事務局) 年度末の大変忙しい時期にご出席いただきありがとうございます。 ホールの運営について、令和5年12月から一般社団法人ネクストゼロへの運営委託が開始しており、令和6年度は運営委託が本格稼働する初年度となる。事業計画などについて、慎重な協議をお願いしたい。 来年度は市制20周年の節目の年となり、様々な計画が改定の時期となっている。まちづくり部では生涯学習基本計画の改定に取り掛かっているところであり、「SDGs」の中の教育という項目では全ての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し生涯学習の機会を促進すると謳われている。また、近年では「ウェルビーイング」という言葉を目にすることがあるが、今後は社会教育・生涯学習においても使用される言葉であり、改定に取り掛かっている生涯学習基本計画においても「ウェルビーイング」という視点を取り入れて生涯学習・社会教育を通じて地域コミュニティを基盤とした社会の実現が非常に重要となってくる。 文化・芸術に触れることで心が癒されたり、気持ちが満たされたりすることが多々あり、それらに参加することで生きがいや幸福感を味わうことができる。そういった意味でも文化ホール事業がこれからの市民の「ウェルビーイング」を向上させていくにあたっては、果たす役割として非常に大きいものがあると感じている。引き続き、委員の皆さまには文化ホールの運営事業の推進についてご理解とご協力をお願いしたい。 ・会議の成立 (事務局) 委員9名中6名の出席により、会議成立 (欠席委員については、事前連絡あり) 2 あいさつ 会長 3 報告事項 以下、議事進行を会長に依頼 —傍聴者の確認— (事務局) 一般傍聴者ならびに報道機関の申込みなし —会議の公開等の確認—	

(会長)

丹波市立文化ホール事業推進会議に関する運営要綱第2条より、会議の公開又は全部若しくは一部の非公開について諮る。本日の議事においては、個人情報に関するものはなく、丹波市情報公開条例に規定される不開示情報はないため、公開とする。

【委員からの異論なし】

①前回会議録の確認

(事務局)

—資料により説明—

委員からの指摘事項なし。各委員の氏名を伏せた上でHPへ掲載する。

②令和5年度事業進捗状況

(事務局)

—資料により説明—

前回会議からの変更点（赤字）を中心に説明。

委員からの意見等なし。

③（一社）ネクストゼロ及び近隣ホールとの情報共有について

(事務局)

—資料により説明—

(委員)

予定の重複を確認するよりも、運営の仕方や公演の選考方法などについて擦り合わせをして、お互いに参考となるような情報共有というものを深めていただきたい。

(事務局)

これまでから日程や公演内容の重複について課題として挙がっていたため、今回共有させていただいた内容としては、公演内容や規模について情報共有したところではあるが、今後は委員からいただいた意見も参考に引き続き共有を図っていきたい。

4 協議事項

①令和6年度事業計画（案）

(事務局)

—資料により説明—

前回会議からの変更点（赤字）を中心に説明。

(委員)

宝くじ公演について、5年度については担当課の事務遅延により申請ができていなかったという説明をいただいたが、宝くじ公演は毎年募集があるのか、6年度については申請等の予定はしているのか。宝くじ公演については、予算を使わずに公演の実施ができるため、ぜひ実施に向けて調整していただきたい。

(事務局)

宝くじ公演は毎年募集があり、4月末から5月上旬頃に募集案内が来るため、ネクストゼロと調整した上で方針を決めていきたいと考えている。募集案内があれば、6年度について申請をする予定としている。

(委員)

少し前に社会福祉協議会が「ぼけますから、よろしくお願いします。～おかえり、お母さん～」の映画上映と講演会をされて大勢の方が来られていたと聞いた。また、昨年11月にシルバー人材センター主催で「老後の資金がありません！」の映画上映をされて450名を超える入場者となった。今年の11月もシルバー人材センターでは、「いのちの停車場」という高齢者向けの映画上

映会の実施を予定している。高齢者向けの映画を実施するのはどうか。

(事務局)

市主催の映画上映会については、春休みや夏休みなど、時期的にも子どもたちがホールに出向きやすい日程を選択し実施を検討している。

シルバー人材センターや社会福祉協議会では、会員への呼びかけもあることから、会員向けの映画を選択されており、集客方法が異なっている。それぞれの主催団体の趣旨に合っている映画を選択されているように思う。

社会情勢を見ながら、子ども向けの映画でもアニメだけでなく実写化の映画を選択するなど、様々な視点から協議を進めていければと考えている。

(委員)

令和5年度の実績を見ると、エビスシネマの影響も少なからずあるのかなと思いますが。

(委員)

エビスシネマの影響はそこまでないかと思う。アニメを上映することも多いが、大人向けのアニメを上映していることが多い。映画監督の舞台挨拶やトークショーをされているので、その時は遠方から駆け付ける方も多くおられる。映画自体はマニアックなものをされている印象を持つが、エビスシネマも徐々に根付いてきている。

エビスシネマが市主催映画に何かしらの影響を及ぼしているとは考えにくいですが、講演会や映画の解説と合わせて実施することも一つの集客方法ではないかと考える。ただ単に公演を実施するのではなく、市民と共同で実施することで、ホールに足を運ぶことが特別なことではなく、自然なことになるという感覚を根付かせていくことが大切ではないかと考える。

宝くじ公演はホームページ上では「800人以上の収容、」との記載があるが、問題ないのか。

(事務局)

同規模の近隣ホールとセットで申し込み、プロモーターを通じて調整することになるため、文化公演の実施については問題ない。

申請等の時期が近付いたら、ネクストゼロと協議を進めていくことになり、決定しだい会議の中で報告するように順次進めていきたいと考えている。

②ホールを活用した文化芸術体験講座「はじめの一步」の実施検討について

(事務局)

—資料により説明—

(委員)

「はじめの一步」は、非常に良い取り組みであると思っている。文化団体協議会では様々な体験フェスティバルを実施しているが、ここまで細かい部分まではできない。市がここまでやっていただいていることは非常にありがたいと思う。

(委員)

それぞれの講座において、1回だけでなく続けていきたいと考えておられる参加者もいると思うが、サークルや団体の紹介をされたりしているか。講師の方は自分が所属しているサークルや団体を勧められると思うが、選択の幅が広がるように他のサークルや団体のチラシを配布することで、どこかで継続していけるようなことができれば、ホールでの舞台出演に繋がっていくのではないと思う。A2事業においても、今の4フェスタ以外でも、はじめの一步が最終的に舞台出演に繋がるようなことがあれば、面白いのではないと思う。ホール公演に繋がれば、参加者もやりがいを感じていただけるのではないかと。

(事務局)

「はじめの一步」講座のチラシで講師の紹介について掲載している。問い合わせがあれば、委員が仰ったことも紹介していければと思う。そうすることで団体に所属する方の増員や若返りを図ることもでき、事後の狙いの一つにはなるが、そういった期待も感じている。

A2事業に展開していこうと考えると、アマチュアとはいえずステージを演出する以上ある程度の技術は必要になるかと思う。これまでから様々な流れの中で、最終的に現在の4フェスタに淘汰されたという形になっている。そういった流れもふまえて、今後、新しいものがあれば協議し

ていきたいと考えている。

そういった部分について、いかがでしょうか。

(委員)

30 年近く A2 事業を実施しており、市民参画型でオペレーターと共に創り上げていく過程の中で、現在の 4 フェスタに絞られてきたと思っている。他のジャンルについては、委員の皆さまからいただいた意見を参考に、ネクストゼロとの協議の中で進めていきたいと考えている。

(事務局)

委員の皆さまの意見を参考に「はじめの一步」講座の内容を検討していければと考えているため、様々なご意見をいただければと考えている。

(委員)

ギターは 8 名も参加していて、非常に人気があるように思うが。

(事務局)

12 名の申込みがあり、当日キャンセル等で最終的には 8 名の方に参加いただいた。

(事務局)

生涯学習の中でも、丹波市は知識循環型生涯学習といい、知識を学んだ人が力をつけていって、それを地域に還元していくというような流れとなっており、「はじめの一步」講座については市の決算等でも非常に良い事業であると言っていたき、もっと PR しろと言われたりすることもある。講師の方の人選について、委員の皆さまからご紹介いただければと思っている。

(委員)

ある方が、小学校の時に黒井踊りを教えてもらって、その時に教えてもらったことがあって今、黒井踊りに三味線で参加している。小さいときに習った記憶が残っていて、今参加するようになったと仰っていた。そういった部分が大事だと思う。

春日文化協会も年々会員数や団体数が減少しており、少しでも増やしていきたいと考えている。春日文化協会でも 10 月末の文化祭において体験型の企画を実施している。

興味を持ちそうなものを実施していくことが大事。一度きりにならないように、継続していくことで新たな発見になるのではないかと考えている。様々な意見を集約して、さらに新たな知恵が出てくるような動きがあれば良いと思う。

(委員)

様々なことが社会教育に移行している段階であり、親子で出向いたり体験したりできる機会があることは非常に良いことだと考えている。スポーツに関してはそういった部分が開けているように感じるが、文化の方も地道に広めていきたいと思う。

③令和 5 年度を通しての意見及び助言について

(事務局)

—資料により説明—

委員からの意見等なし。

5 その他

(事務局)

次回は 7 月の開催を予定している。市の出納閉鎖の後、議会が終わりしだい実施するよう調整している。

(委員)

委員の任期について、9 月末から年度末の 3 月末に変更することについては、どうなっているか。

(事務局)

前回説明した内容のとおり、現委員の任期については令和6年9月30日までとなっている。設置要綱の任期が2年となっているため、そのままいくと令和6年10月1日から令和8年9月30日までとなるが、要綱の任期を2年以内に改正し、次回の委員は令和6年10月1日から令和8年3月31日までの1年半となる。その次からは年度替わりの流れへと変更することについて、合意をいただいたと認識している。

(委員)

承知した。

(事務局)

次の委員の任期は、1年半と短い期間となるが、要綱の改正も含めて進めていきたいと考えている。半年延長する方法もあるのではないかという意見をいただいていたが、要綱には2年という記載になっていることと、市長が委嘱しているため、会の中で合議を図ることができたから延長するというわけにもいかないという部分もあるため、このような形で調整し前回の会議で説明させていただいた。

(委員)

文化ホールの運営委託について、令和6年4月から一般社団法人ネクストゼロへの運営委託が本格稼働するという事で、令和5年12月の準備期間から動き出しているが、どのような感じになっているのか。

(委員)

約3年間、まちづくり部と協議を進めてきた中で様々な物議を醸してきたが、令和5年12月から準備期間に入り、令和6年1月から3人体制で貸館事業を開始し、4月からは5人体制で本格稼働できる体制となっている。今後は一般社団法人ネクストゼロにおいて、これまで市が行ってきた業務運営を実施していくこととなり、活動については丹波市立オペレータークラブ ZERO-IVも従来通り活動していくという流れになっているため、オペレータークラブ ZERO-IVの活動についてはこれまで通り変わりはない。変更点としては、運営母体が市からネクストゼロへ移行することのみとなっている。

これまで市の文化芸術を担当として培ってきた方が、ネクストゼロの代表理事に就任しており、他の社員についてはホール技術員が就任しているため、活動自体は問題なく開始できると考えている。

(委員)

貸館業務の受付についてはいかがでしょうか。

(委員)

ネクストゼロの社員がライフピアいちじまで勤務しているため、春日での受付対応については担当課と協力しながら進めていくことになる。

6 閉 会 副会長

ホールの運営委託について、4月1日からネクストゼロの5人体制として本格稼働することとなる。市や市民の皆さまからの理解を得られた上での民間委託となっており、令和6年度は真価の問われる1年になるものと考えている。市民目線での活動に重きを置いて「丹波市ならではの活動ができるよう、委員の皆さまの意見をいただきながら進めていきたいと考えているため、引き続きご理解とご協力をいただきたい。

これもちまして、令和5年度第3回丹波市立文化ホール事業推進会議を閉会します。